

4つのコース

※カリキュラム見直し等により、開講科目や科目の配置コースが2020年度入学生向けのものとなる場合があります。

本学部には4つのコースが設けられており、それぞれのコースに、基本的視野を身につけるための「基幹科目」と、より応用的な内容を扱う「専攻科目」が置かれています。学生は、複数コースの「基幹科目」を履修することで視野を広げながら、自身の選択したコースの「専攻科目」を重点的に履修し、専門性を探求します。

情報文化コース

情報を収集・分析・編集し、
新たに発信する力を養う

現代において「情報」が思考や生活の基盤になるとの立場から、人間を主体に「文化」と情報の分析・編集・構成との関係性を学びます。倫理、生物多様性、こころ、ロボット、メディアアート、デザイン、データサイエンス、セキュリティ、モノのインターネット、AI、VRなどグローバルな領域で研究、作品制作、フィールドワークに取り組みます。



佐藤 和夏さん

出身高校：東京都立文京高等学校
SA先：ロシア ペテルブルク国立交通工科大学

Course Recommendations -印象的だった授業-

ソーシャル・プラクティス

学部パンフレットの表紙や、自身が所属するサークルやゼミなどのロゴマークをデザインする授業です。Adobe Illustrator、Photoshopの使い方から、デザインの基礎まで、先生が丁寧に教えてくれるため、初心者でも問題なく制作に励むことができます。また、定期的に制作物のプレゼンも行うため、先生だけでなく他の学生からの意見やアイデアを取り入れることが可能です。人に理解してもらいやすいデザインを知ることが、授業のレポートやプレゼン資料を作る際の糧となります。ソフトウェアを用いて何かを作ってみたいという人におすすめの授業です。

情報の編集論

フリーデザイナーである先生による授業です。情報とは何か、それを人に伝えるためにはどのようにする必要があるのか、という問いからこの授業は始まります。商品のパッケージやCMなど、受講生が気になったものを授業で紹介し、なぜこの商品が気になったのかというところから、対話形式で理解を深めていきます。学期末には架空の商品をつくらせ、パッケージから売り出し方、広告媒体までをプレゼンします。普段何気なく見ていたパッケージやCMに目を向けるきっかけとなりました。

道具のデザイン学

人間の生活をより豊かにする道具とは何か、ヒューマンインターフェース＝人間と外界との間を繋ぐものであり、その設計手法を学ぶ授業です。モノのデザインだけではなく、モノを購入する動機から、使ってみてまた同じモノを選ぶ…といったユーザー体験を、どうアプローチしてデザインするのかというプロセスを学びました。学期末には授業で説明されるアンケートやインタビュー方法を用いて、任意の製品を改善した企画書を提出します。入社して企画職に就いた時だけでなく、就職活動でのグループワークなどでも、授業での学びが活用できると感じました。

表象文化コース

アート、音楽、舞台、映画、ダンスなど
様々な芸術表現について学ぶ

表象文化の学習は、表象された対象を知ると同時に、表象する視点を知ることの意味します。つまり様々な芸術表現に触れることで異なった地域や時代の人々の思考・価値観・感受性を追体験し、自分を豊かにしたり、未知の他者の心に訴える表現活動をしたりする道が開けるのです。



矢野 珠希さん

出身高校：聖和学院高等学校
SA先：韓国 韓国外国語大学

ポピュラー音楽論

普段私たちが聴いているポップソングについて、ポピュラー音楽の定義や歴史を踏まえて学ぶことができる授業です。音楽そのものの歴史だけでなく、音楽を取り巻く環境についても学ぶことができるので、音楽と社会の間にはどんな関係があるのかを知ることができます。この授業では様々なジャンルの音楽を聴きながら勉強できるので、自分の知らなかったジャンルの音楽に出会うこともできます。授業を通して音楽の歴史はもちろん、音楽と社会が相互に与える影響について考える視点が得られます。音楽が好きな方は楽しんで学べる授業です。

異文化と身体表現

世界の伝統舞踊や舞台芸術について学べる授業です。西洋と東洋の舞踊の違いやアジア諸国と日本の舞台芸術の比較など、映像を通して学びます。日本の伝統芸能である能や歌舞伎、人形浄瑠璃等についても学べるのでSAや外国人との交流の際に日本と海外の芸能について比較しつつ紹介できるようになります。舞台芸術や外国の芸能に興味のある方、日本の芸能について詳しく勉強してみたい方におすすめです。

比較表象文化論

この授業では、オリエンタリズムやジェンダー論について深く学ぶことができます。これらを理解するのは、少し難しいと感じるかもしれませんが、映画やオペラ、舞台などを観て分析しながら学べるので、理解しやすいです。また授業内では、グループになって意見交換をするので、自分にはなかった考え方をすることもできます。この授業を受けた後には、自分が楽しんでいる娯楽作品についてオリエンタリズム等の理論を用いて、作品を楽しむことができるようになります。

言語文化コース

各言語圏特有の文化を掘り下げ、
文化の多様性を探求する

SAプログラムの留学先である英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語の各言語圏の文化や、東南アジア、アフロ・アジアの文化、世界の中の日本文化についての知識を身につけます。設置科目の内容は言語学、文化史、思想史、文学、芸能、現代事情など多岐にわたり、言語そのものや、言語が生み出す文化の多様性を、広い視野で学びます。



須永 麻鈴さん

出身高校：千葉県立木更津高等学校
SA先：カナダ ヨーク大学

言語文化概論

この授業では、英語の教科書を翻訳しながら、歴史的背景から言語と文化、社会との密接な関わりについて、理解を深めていくことができます。SAに向けての基礎知識にもなり、世界で起きている現代の問題について、問題意識を持つことができるようになりました。教科書は全て英語の文章かつアカデミックな単語も多く、予習復習はとても大変でしたが、SAではそれ以上の学力が必要となるので、さらなる英語力向上を目指すきっかけにもなりました。私はこの授業で言語文化コースの専攻を決めたので、コース選択で迷っている新入生にも言語文化コースが、どのようなものかを理解できるのでおすすめです。

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

この授業では、第三世界という旧植民地の歴史について学びます。はじめは内容を理解するのが難しかったですが、先生がとても丁寧に時代背景から教えてくださるので、とても興味深く学ぶことができました。旧植民地の悲惨な歴史について学ぶことで、私たちが知らなければいけない現状を知り、その知識を持ってSAに臨むことができました。やはり海外に行くことに楽しいことばかり思い描いてしまいましたが、このような歴史的な知識を学んでおくことで、より幅広い視点から学ぶことができ、多くのことを吸収することができます。特に、英語圏への留学をする人にとっておくべき授業です。

ジェンダー論

私たちが、当たり前のように無意識に思い込んでいる「女らしさ」や「男らしさ」について批判的な視点で様々な側面から考えていく授業です。グローバルな文化や社会について考えていく上で、ジェンダーの視点から異文化への理解を深めるきっかけにもなりました。現代でも世界的に注目されているLGBTや幼児虐待など、ジェンダーの問題を取り上げるので、理解を深めるとともに、私たちの実生活に照らして考えていくことのできる授業です。ジェンダーについて理解を深めるだけでなく、その視点から異文化を読み取ることができるというのはとても衝撃的でした。

国際社会コース

国際社会の交流と仕組み、
その問題点と解決方法を探る

私達が生きる21世紀はグローバル化の時代と言われます。グローバル化とは何か、を知るには世界各地の人達と自分とのつながりを認識し、世界のなかの自分の位置を確認することから始まります。国際社会コースでは現代世界の特徴や問題を見極め、異文化への理解と共感をもって他者と関わり、新たな世界を創りだせる人を育てます。



陳 傑さん

出身高校：Lyndon Institute(アメリカ・バーモント州)
SJ先：長野県飯田・下伊那地域

実践国際協力

「国際協力」という言葉を見た時、頭の中で最初に浮かぶイメージは、ボランティア活動でした。しかし、実際の「国際協力」とは、より複雑な環境で行われ、その間に様々な問題が生じているものでした。この授業では毎週、国際開発協力に関連する事例を取り上げ、協定中に対面する問題を捉え、あらゆる視点から自分なりの意見を考え、グループ内で議論します。学年の異なる学生同士で議論し、様々な意見を聞きながら自分の考えを深めるとともに、コミュニケーション能力の向上にも役立つ授業です。

地域協力・統合

みなさんは「ヨーロッパ」についてどこまで知っていますか。私は子供の頃から西洋文化に対し大変興味を持ち、特にヨーロッパという独特な大陸から、不思議な魅力を感じ、心が惹かれています。この授業では、ヨーロッパという概念から20世紀中葉における統合の制度化までの歴史を学習し、時代背景を通して思想が政治に果たす役割を探ります。高校まで学んだヨーロッパと違い、歴史の再認識を加え、ヨーロッパに関するより深い知識を学ぶことができます。「こんなヨーロッパを初めて知りました」と心が叫ぶほど、毎回の授業で驚きを隠せませんでした。

平和学

「あなたにとって、今の世界は平和ですか」。日本で生活する私たちは、なにげなく「もちろん平和です」と答えるでしょうが、実際そうとは限りません。この授業では、平和の概念と種類の理解から出発し、歴史や思想、組織、制度などを学ぶことで平和や暴力について考え、「平和とは何か」を多角的に学習します。授業内で取り上げたテーマと事例について、近くの学生とディスカッションする時間が毎回設けられているのが特徴で、異なる意見を聞けることが非常に面白いです。平和学の視点から様々な領域を捉えることで、「平和」という言葉が新鮮に感じるほど、新たな発見を得られる授業です。